早稲田大学の皆様

ようこそ“まつだい”へ

古き伝統と素朴な自然，そして
温かき人情の町をご紹介します……

〝五葉の松〟
松苧神社境内にそびえ立ち、数多くの伝統に包まれている。

松代というところ

早稲田大学総長
西原春夫

「いなか」この言葉は、そこに住む人にとっては何となく侮蔑されたような印象を受けるものかもしれない。しかし都会に住む人にとっては、その言葉を聞いたとき、心の片隅に秘められた、ある種のあこがれに似た感情をかき立てられる思いがする。

そこには都会や観光地にはない素朴な自然と生活と人情があって、現代人の忘れかけた古きよき日本が姿を残しているのではないか。そういう期待と願望が、にわかに心をかきむしるようにわき上ってくるのである。

早稲田大学は、ふとしたきっかけから新潟県の山奥の松代町にその「いなか」を発見した。

そして、松代の方々の御好意で、約二万坪の土地を無償に近い形で譲っていただくこととなった。それから四年、大学は順次その土地を整地し、グランドを作り、今年でほぼ使用できる体勢ができ上った。

松代校地の特色は、まさに「いなか」の生活を満喫しつつ勉学や、サークル活動に打ち込み、そのかたわらでスポーツを楽しむことができるところにある。

とりわけ素朴な地元の人々との接触は、都会の真只中にある早稲田の学生諸君にとって、まことにかけがえのない貴重な体験になることだろう。先年夏休み中にここで合宿をしたあるサークルの場合、町中総出の夏祭りが最後は早大校歌の大合唱になったという。そして帰京するバスが出発しようとするとき、送る人と送られる人とが互いに涙を流しながら別れを惜しんだという。そういう胸迫る体験がいまどこでできるだろうか。

松代校地の場合、あえて大学で宿泊施設を作らず、地元の中学の寮や民宿を利用させて頂くことにしたのは、単なる財政的理由だけからではない。早稲田の学生諸君に、ここで、失われつつある日本の「いなか」を十分知って頂きたいからにほかならない。松代町の方々の御好意を尊重しつつ、松代での生活を早稲田の思い出に加えることをぜひおすすめしたい。

ごあいさつ

松代町長　秋山利作

緑と雪と自然がいっぱいの越後の国松代町からご挨拶申し上げます。

昭和五十四年にハーモニカ・ソサイアティとマンドリン楽部の方々からお出でいただき、以来毎年交流を深めさせていただいております。

当町に建設を進めておられる校外施設も着々と整備されております。今年は野球などスポーツ部員の方々からお出でいただけるのではないかと期待いたしております。

松代町は、四季の変化が極めて顕著であります。

春四月、和らかい日差しが雪を解かしはじめると、萌え黄色の新鮮な芽吹きが始まります。森羅万象、生きとし生けるものすべてに生命の息吹きを感じる季節です。躑躅、椿、辛夷、梅桃、桜が一斉に花開きます。新緑の梢に小鳥の美しい囀りを聞きながら、山菜取りに興じるのもこの頃です。一年中で一番長閑かで楽しい季節です。

梅雨どきを過ぎて七月も下旬になりますと真夏の太陽が、すくすく育った青田の稲をぎらぎら照らし、木々の緑は益々深く緑陰に涼を求めて蟬時雨の中に憩うとき、心は安らぎ、しばし瞑想の世界にさそってくれます。

九月ともなれば稲は黄金色となり、そよ風に金穂が波打つ頃キノコ刈りが始まります。真澄の空はあくまでも高く、吹く風もさわやかです。キノコ刈りの最盛期と共に山に紅葉がはじまり、紅や黄がどんどんふえて、やがて全山錦あやなす、美しい紅葉と変ってゆきます。

十二月の始めになると時折り空から白いものが落ち始めて、正月前後からあたり一面銀世界となりスキーシーズン到来です。学年末学年始めまで続き春スキーが楽しめます。

空気が清く、自然がいっぱいで、うまい米「こしひかり」の里、松代町です。

上越新幹線が開通し、車に乗り継いでも東京～松代間は三時間で結ばれる速さになりました。夏の合宿ばかりでなく、四季を通じて松代の良さを体験していただきたいと思います。

折角の「えにし」をいつまでも大切にしてゆきたいと考えております。

大学誘致の回想

松代町教育長　島田健司

都の西北、松代の地に早稲田大学の校歌が響き、施設建設の槌音が高まっています。

また、大学の持つ高い文化が先生方をお迎えしての講演会、学生諸君による演奏会などによって着実に根をおろして参りました。

かつて私どもが夢想だにしなかったことが、今現実に展開され、大学と町を結ぶ懸け橋が、過疎の村に大きな転換の兆しを与えようとしています。

町民がひとしく夢と希望を持てることになったこの時点で、改めて基礎づくりに献身的な御努力をいただいた、木戸、藤巻両氏の御協力に謝意を表し、今日に至るまでの経過について、その概要を振り返り、後日の参考に供したいと思います。

今から四年ほど前の昭和五十三年初秋に、中学校統合によって廃校となる山平中学校あとに早稲田大学の施設を誘致できるのではないかという情報が、藤巻幹雄氏からもたらされ、町を挙げてこれを歓迎する方針が打ち出されました。

その後、藤巻氏と義弟木戸一之氏（早大理工学部出身、三菱電機勤務）の両氏が、大学側と密接な連絡をとりながら具体的な準備を進め、九月末には大学から、大見川施設部長一行の現地視察が実現するに至りました。

この視察から、大学側が希望する土地の広さが一部民有地にも及ぶこととなり、多くの方々の御協力御支援をいただき受入態勢を整えました。

十一月には、秋山町長を先頭に大学を訪問して、清水総長をはじめ理事者に、大学進出の実現を強く要請し、大学側も積極的に対応されることになりました。

昭和五十四年に入って、一月に、正田、勝村両常任理事一行五名が現地視察に来町され、具体的な条件などについても協議が行われるまでに進展しました。

三月末には、町長をはじめ藤巻、木戸両氏及び教育長が大学を訪問して、土地約六五、〇〇〇平方メートルと校舎等建物一切を大学に譲渡することで仮契約の調印が実現し、大学の進出が決定しました。

町内においても、この間の事情に呼応する形で、民間有志による早稲田大学協力会の組織が結成され、八月末に大学進出を記念する、早稲田大学フェスティバルを、ハーモニカソサイアティー並びにマンドリン楽部の学生七十二名を迎えて盛大に執行することが出来ました。

これを契機として、学生と住民の交流が始まり、毎年マンドリン楽部、ハーモニカソサイアティー、ボクシング部、なべの会などの学生が合宿訓練や演奏会を開催し、年を追って友愛の深まりが見られます。

この間大学は、施設の整備についても十分に配慮され、多目的グランドは既に完成し、使用開始を待つ状態であります。

テニスコートの整備、セミナーハウスの建設などについての計画も進みつ、あるように聞いております。町においても、大学の計画に併せて、学生誘致に役立つよう、総合体育館（延面積五、〇一二平方メートル）を建設中であり、宿泊施設として夏の期間は中学校の寄宿舎を開放することとしています。

大学、町とも、それぞれの施設を相互に開放することで、より深く学生と住民の連帯を進めることにしております。

また、大学と町との結びつきは、五十五年度に清水総長が現地視察を行われたのを始め、西原常任理事（現総長）窪田体育局長等体育局関係者、庶務部、施設部、教務部、学生部、調度部などの各機関の関係者多数の御来町があり、地域を理解していただくことが出来たものと思っております。また、大学の先生をお迎えしての文化講演会も五十四年以来毎年開催させていただき、理工学部の戸沼教授、社会科学部小林教授、文学部東教授、第二文学部長相馬教授の各先生から受講者に大きな感銘を与えていただきました。

今や早稲田大学の存在は、松代町にとって地域の命運を左右するほどに密接なものとなって参りました。創立百周年を画されて、大学が地域とともに一層発展される方向に進まれることを御期待申し上げまして、回想の筆をおきます。

◉松代町の早稲田大学施設◉

総合グランド（野球・ハンドボール・サッカー・ラグビー等）
テニスコート・バレーボールコート（予定）

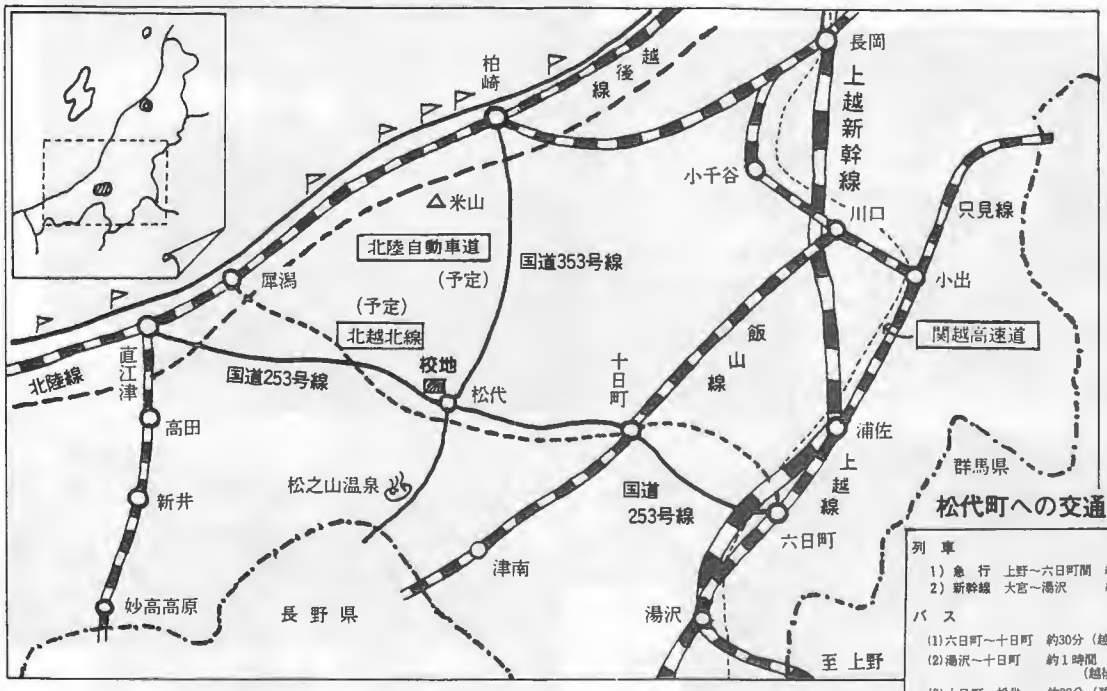
松代校地　冬景色

早稲田大学松代校地は松代町大字蒲生（かもう）と云う一二〇戸程の部落の中にあり、国道二五三号線と二五三号線の交錯点に位置します。農協、郵便局、内科医院があり、夏には町営プールの施設もあります。
「日本自然一〇〇選」に選ばれた松之山天水のブナ林のすぐ近くに位置し、校地も七、〇〇〇坪のブナ林自然林を持っています。

蒲生部落の航空写真
かもう

校地の航空写真

◉松代町の位置◉



松代町への交通概要

列　車
1）急　行　上野～六日町間　約3時間
2）新幹線　大宮～湯沢　約1時間

バ　ス
(1)六日町～十日町　約30分（越後交通）
(2)湯沢～十日町　約1時間（越後交通）
(3)十日町～松代　約30分（頸城バス）
※但し団体行動の場合（10名以上）松代町と六日町、湯沢間の送迎バスを用意いたします。

◉松代町から学生の皆様に提供出来る施設◉

総合体育館

松代町では町民のコミュニティーづくりと心身健全育成の場としての総合体育館を五十八年十一月に完成の予定で工事を急いでおりますが、特に早稲田大学の皆様にご利用いただく為に県内有数の規模と設備を用意して、お待ちしております。

規模、施設の概要は次の通りです。

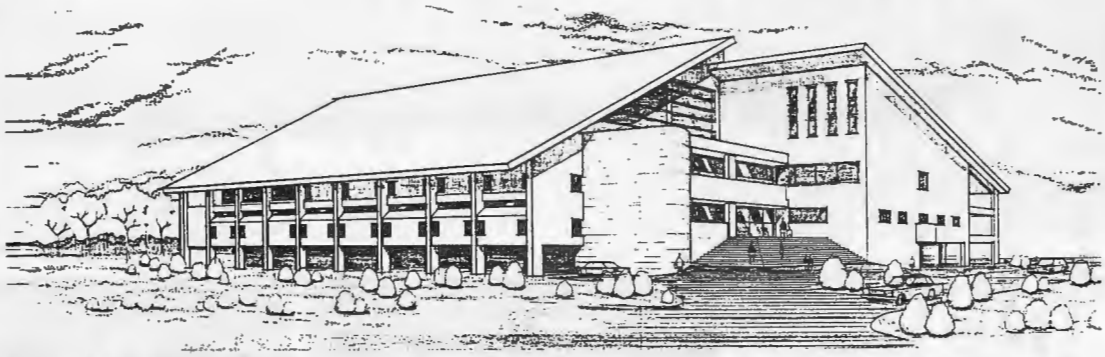
構造…鉄筋コンクリート
一部鉄骨三階建

規模…
建物延面積五、〇一二㎡
敷地面積　二五、五六九㎡

一階　ピロテー方式
駐車場、ランニングコース、機械室、投球場

二階　事務室、和室、会議室、談話ロビー、シャワー室
更衣室、器具室、ステージ、体育館（一、四八九㎡）
バレーコート　二面
テニス　二面
バスケット　二面
ハンドボール　一面
バドミントン　十面
ランニングコース
（一周　一八〇ｍ）

三階
トレーニングコーナー
健康相談室、柔剣道場、ギャラリー（四〇〇席）
トレーニングコーナーにはトレーニングマシーンを設置



松代町総合体育館
完成予想図

松代町利用可能施設一覧表　57年８月現在

施設名	人数	期間	費用	備考
松代中学校寮（松和寮）	80人	５～10月	電気、水道ガス等実費、損傷あった場合、修理代実費 昭和57年８月で　１泊３食付 2,000円～2,500円	ベッド72人、和室８人 給食設備あり
民宿　松代	50～100人	年中	１泊３食付	一般民家に宿泊する為５～６名ずつ分宿
〃　蒲生（かもう）	50人	〃	約3,000円	
給　食	100人	年中	実費	
松代中学校体育館		事前に要調整	電気、水道実費	
スキー場、大谷内（おおやち）		１～３月	雪上車実費	蒲生より徒歩約10分
〃　松代		〃	ロープリフト代実費	
プール　松代		６～９月	30円／回	
〃　蒲生		〃	〃	
クレー射撃場 アーチェリー場		５～11月 〃	管理人手当 実費	
総合センター	200名	年中		
貸切バス	40人乗 15人乗・各１台	年中	松代～六日町 (5,000円／往復)	松代～湯沢も可
松代町総合体育館		昭和58年11月より年中		詳細上記
大厳寺高原キャンプ場	バンガロー５棟 テント50張	６～10月	バンガロー１泊3,500円 テント1,000円	炊事場・トイレ バーベキュー施設 駐車場完備
松之山温泉共同浴場		年中	無料	

総合センター（集会場所）

松代中学校

松和寮

◉松代の四季◉

春

松芧神社

「七ツ詣り」

吽形

狛犬 阿形

白馬観音像

松芧（まつお）神社

毎年五月八日、新緑の季節に行なわれるこの町の古き伝統行事、松芧神社初登山の行事と松芧神社の由来について「広報まつだい」から引用してご紹介いたします。

「七ツ詣り」と言って男子七歳になると必ず山頂の松芧神社に登って祈願する習慣が今も続いております。親達は子供が急峻な松芧山に登られるように成長したことを喜び、赤飯やお神酒を持って神前に供えて祈願します。

神社は今から約千百年前の大同二年に建立されたと伝えられています。その後いく度か建替が行われた模様ですが、建物は柱柄が太く軒の出が少ないなど冬の豪雪にも耐えられる造りで修験道の遺構も見られて類例の少ない特異な建物であり、貴重な存在として昭和五十三年五月三十一日に重要文化財に指定されました。

現在の建物は桃山時代の天正年代に改築されたと伝えられていましたが昭和五十五年七月から二ケ年継続で国、県の補助を受けて解体復元工事が行われました。その際、向拝正面の右側の柱の頭骨に明応六年（一四九七）六月十五日に建てられた旨の墨書が発見され、年代の明らかなものとしては新潟県内最古の木造建築であることが明らかとなりました。

神社にはいくつかの宝物がありますが、神殿に阿、吽（あ、うん）形の狛犬があり、このほど解体修理したところ吽形の胎内に応永十年（一四〇三）八月二十一日造られた墨書が発見され、又昭和二十年の豪雪に毀された中腹の観音堂の本尊、三面八臂の馬頭観音像には応永十年八月二十四日に作られた墨書があります。

松芧山は春は花と若葉に包まれ夏は緑の木陰も涼しく、秋は全山紅葉して錦を飾る風景明媚なところです。参道は吊橋あり急峻な山であり鎖につかまって登る箇所もあり、ハイキングコースに最適です。

《山菜を食べる会》

〝梅も桜も、みなひらく〟雪国の春は又、山菜の宝庫です。

毎年五月第三土曜日に、松代町少林寺を会場として、山菜を食べる会が近隣市町村の同好の志を集めて、盛大に行なわれます。

山菜料理

夏…〝お祭り〟

○**観音祭り**　七月十九日～二十一日。

古来から観音様のお祭りとして続いており十九日夜花火大会、二十日民謡流し、小学生鼓笛隊演奏行進、商工会主催アトラクション、夜は露天市が立って賑わいます。

○**お盆祭り**　八月十四・十五・十六日。盆踊り大会が催されます。

○**しちんち祭り**　八月二十七日。

松代神社のお祭りで夜、「子供みこし」、数え年二十一歳の若者達による「青年みこし」などで賑わい、各町内で盆踊りなども行なわれます。早稲田の学生さん達もこの祭りに参加されています。

民謡流し

近隣海水浴場

柏崎海岸、鯨波海水浴場、名勝福浦八景、直江津海岸、谷浜海水浴場等、清冽な日本海々水浴場へ車で約一時間位。

伝説の島「佐渡」へ直江津港から小木港へ一日四往復、海路二時間三十分。

鼓笛隊

夏

◉松代の四季◉

秋

紅葉の頃は、若葉の季節にも劣らず松代の一番美しい時です。

「名勝二題」

大厳寺高原　校地から車で二〇分

清津峡　校地から車で四〇分

大厳寺高原

清津峡

むささび

「山の人気者」

むささび

松代高校に、早大教育学部卒で藤田久先生と云う方がいらっしゃいます。生物クラブを率いて「むささび」の研究で読売新聞社主催、第二十六回日本学生科学賞・高校の部最優秀賞（科学技術庁長官賞）を受賞されました。

●近隣スキー場……

冬は白一色、全ての斜面はスキー場に変り、初心者に最適です。また、地形はクロスカントリーに適しており、幾多の全日本クラスの選手を輩出しています。

十日町の雪祭り

『十日町市雪まつり』

毎年二月第三土曜日、明石ちぢみの里、十日町市では、絹織物の求評会を兼ねて雪まつりが盛大に行なわれます。

『松代相撲』

NHK「新日本紀行」などにも取り上げられた松代相撲が毎年初場所に行なわれます。

暗い雪国のイメージを吹き飛ばす為に色々な趣向を凝して行なわれます。皆さんも参加されてみては……。

松代相撲

冬

交流・そして強まるきずな

53・9・30　早大校地誘致にともなう現地視察のため、施設部長、大見川敏夫氏、建設課長、川嶋栄喜氏、同課、加藤喜一氏ご来町

53・11・18　松代町長、同教育長他二名、校地誘致懇請のため、早大訪問。清水総長、勝村常任理事、渡部理事、大見川施設部長、川嶋建設課長、同課加藤諸氏ご同席

54・1・14　正田、勝村両常任理事、大見川施設部長、川嶋建設課長、加藤、工藤、六氏現地視察のためご来町

54・2・24　松代町教育長、仮契約内容協議のため上京

54・3・29　松代町長、教育長他二名、仮契約調印のため上京

54・7・10　松代町議会議員、町長等執行部、早大追分施設見学

54・8・26　早稲田大学歓迎フェスティバル、マンドリン楽部・ハーモニカソサイアティー一行来町、七二名。二日間にわたり演奏会

54・8・27　松代町役場にて校地譲渡本契約締結、大見川総長室長、長谷川庶務部長、井上学生部副部長、曽我教務部副部長ご来町

54・8・28　町文化講演会、理工学部教授　戸沼幸市氏ご来町

54・9・17　橋口施設部長、川嶋建設課長他境界確認のためご来町

54・10・5　橋口施設部長、グランド整地事業現場説明のためご来町

55・6・7　橋口施設部長、宮崎康之野球部監督他現地視察のためご来町

55・8・2　西原春夫常任理事現地視察のためご来町

55・8・3　ボクシング部合宿訓練のため来町。三〇名十三日帰京

55・8・7　マンドリン楽部、合宿のため来町、各地で演奏会。六二名十一日帰京

55・8・8　橋口施設部長、上田体育局教務副主任、佐藤体育局事務長、広報課三枝氏、現地視察のためご来町

55・10・16　文化講演会、社会科学部教授、小林茂氏ご来町

55・10・19　清水総長他現地視察のためご来町

55・11・10　野球部長正田教授、橋口施設部長、宮崎監督現地視察のためご来町

55・11・20　川嶋建設課長、加藤氏、工事状況視察のためご来町

56・8・21　ハーモニカソサイアティー合宿のため来町。六〇名

56・8・27　同演奏会、二八日帰京

56・8・28　文化講演会、教育学部教授　東　清和氏ご来町

57・8・9　体育局長窪田教授、同教務主任矢野教授、森教授、渡部教授、橋口部長、現地視察のためご来町

57・8・20「なべの会」合宿のため来町。八五名　九月十日帰京

57・8・22　ハーモニカソサイアティー合宿のため来町、演奏会四〇名、二八日帰京

57・8・30　文化講演会、第二文学部長、相馬一郎教授ご来町

57・9・12　新潟県稲門会総会のため清水総長、西原常任理事、ご来高。松代町長、教育長ごあいさつのため訪問

58・4・22　小林茂教授他、松代調査下見の為ご来町

出会い・思い出の数々

早稲田大学・松代町のつどい

松代を訪れた学生の皆様の

声 声 声

人々の生活は、雪の冷たさとは対照的にあくまでも素朴で温かく、松代を訪れる若者の心を捕えて離さない。町中には雪国ならではの三階建ての家が数多く軒を連ね、足を一歩踏み入れればその頑強な柱や太い貫に目を見張る。観光地ではこのような昔ながらの民家を郷土資料館として一般に公開している所もあるが、そこでは昔の人々の生活を忍ぶことはできても現実に生活している人々の姿を目の当りにすることはできない。

しかし、松代の家々には今も人々の生活が脈々と息づいており、これらはまさしく生きる資料館と云えよう。

私が初めて松代を訪れたのは大学二年の夏休みだった。ちょうど祭りのシーズンで、昼は御輿がねり歩き、夜は民謡流しの列が町のメインストリートを埋めた。私達も浴衣を着てその列に加わり、独特な節回しの民謡に合せて見様見真似で手足を動かした。民謡流しの列は町の外れまでくると人の輪に形を変え酒を手に手にこの日の松代は夜遅くまで町中が酔いしれた。

私は学生時代に二度この町を訪れたが、松代はいつも変わらぬ笑顔で私達を迎えてくれた。

松代と人々との直接的交流を通じて、私は都会の雑沓の中でいつの間にか失ってしまった、何かとても懐しいものに触れたような気がする。

マンドリン楽部
55年度幹事長
新井孝一

「血につながるふるさと、心につながるふるさと、言葉につながるふるさと」松代は、こんな藤村の言葉がぴったりする、「早稲田のふるさと」である。

雪国のきびしい自然環境の中で培われ、守り続けられてきた

ハーモニカ・ソサイアティー
56年度幹事長
岡田正彦

松代とハモソ（ハーモニカ・ソサイアティーの略称）の関係は、実質的にはここ二年間であるが、その端緒はと言えば、私が一年生であった時に、早稲田大学と、松代町の交歓の一環として、マンドリン楽部との合同演奏会を行った時にまで遡るから、既に、三年目の付き合いということになる。

実質的と言ったのは、最初の時は演奏会の終了後、すぐに隣りの町に移ってしまったからで当クラブとして深く拘り合いを持つようになったのは、この二年間二回の合宿においてだからである。

さて、その二年間二回の合宿についてだが、一言で言えば申し分のないものであった。合宿所としては、瀟洒で、安価な料金で…この点は学生にとってはなかなか重要なのですネ！…中学校の宿舎である〝松和寮〟を、そして練習所としては、音響効果の良い同校音楽室を使わせていただき、その上に、ミニ・コンサートを開かせていただいて音楽クラブとしては、この上もない快適かつ有意義なものであった。食事も美味しく、差し入れなどもしていただいたし、また時間のあいている時は、野球とかバドミントン等で遊ぶこともできたことなど、私が今まで経験した七回の合宿の中でも施設その他の面で抜群であった。

しかし、それ以上に素晴らしかったのは、町の行事としての〝民謡流し〟や〝盆踊り〟に参加させていただき町の人たちとの交流を深めることができたことである。踊りの列に溶け込んで、ぎこちない手つきながらも見よう見まねで踊った。あのなごやかな雰囲気などはまったく忘れられないものである。部員の中には、初対面の町の人の家にお邪魔して歓待してもらった人もいるし、また別の家などには、部員皆で上がり込んで乾杯をするなど、東京などにいたのでは絶対に味わえない楽しい思い出となっているのである。

以上のように、とにかく松代での合宿は、環境は良い、施設は良い、そしてなにより思いやりのある町の人たち、と三拍子そろった中での充実したものであった。私個人としては今年で卒業するわけだが、あの夏の想い出は絶対に忘れられないし、他の部員全員も同様であろう。その卒業する者として、これからの後輩たちにもあの経験を味わわさせてやりたいという気持を含めて、クラブとしてもこれからも松代との関係を保って行けたらな、と思うのである。

ハーモニカ・ソサイアティー
56年度外政マネージャー
本橋達夫

昭和54年夏……早稲田の体育施設が松代にできるということでそれを記念して私たち（ハーモニカソサイアティー）とマンドリン楽部が招待され、同地で演奏会をしたのが松代との出会いである。その夏初めて松代に向う途中、沿道のあちこちに、〝歓迎！早稲田大学!!〟と白地に黒く大きく書かれたポールが立っているのをバスの中から見てなんだかすごくヒロイックな気分になったのを今でもよくおぼえている。

マンドリン楽部とのジョイントコンサートが、松代小学校の体育館で華々しく行なわれた日の晩、町や村の人達の家に分宿させてもらい、初対面にも拘らず、家族同様あたたかくもてなしていただいた。その上わざわざ盆踊り大会まで催していただいて、楽しい夏の一晩を過ごしたのである。〝オレたちを本当に歓迎してくれているんだなあ〟と思って、すごく嬉しかった。

それ以来、毎年夏、松代の松和寮で合宿をさせていただいて地元の方達との交流を深めているのだが、人々の早稲田の学生に対するあたたかい心遣いは、三年前と少しも変らない。美しい自然と、素朴で善良な人々が

（次頁へつづく）

いい合宿を〝演出〟してくれる。一人でも多くの早稲田の学生が松代を訪れ、心のふれあいを楽しみ、そして松代と早稲田のきずながより深まることを期待してやまない。

ボクシング部
57年度マネージャー
古泉和子

二年前の大学二年の時に松代町で夏合宿をした。

ボクシング部では、毎年春夏二回の合宿があり、場所も何カ所か回ったが、もう卒業を控えあの辛く厳しく、かつ思い出深い合宿も終わりである。万一留年でもして、もう一年いることになったら、合宿はぜひ松代へ行きたい。

松代のお米の美味しさは、東京とは比べものにならないし、おばさん達が手間ひまかけて作って頂いた献立は、おふくろの味そのものであった。かえって「こんなに豪勢で大丈夫かな」とこっちが心配したくなる程だった。これも松代町の人達の温かい人柄が忍ばれる一側面にすぎない。

早稲田の学生なら、一度は行ってもらいたい。一度行ったら懐しくてまた訪れてみたくなるような、そんな町である。

『なべの会』
57年度 幹事長
白井敬和

こんにちは。去年の夏、小貫で合宿をさせて頂いた『なべの会』です。松代町にお世話になったのは八月の終りから九月にかけてですが、その間白地に赤テープでWASEDA等と書いた車が我物顔で走りまわり、皆様には大変迷惑をおかけしました。

さて、なべの会ですがマンドリンクラブ等と違って、何をするのかわからない方も多いかと思いますが、野草を接点として自然と親しもうという活動を行っております。実際に何をするのかといいますと、野草の写真をとったり、酒に漬けたり、さらに採取してきたものを食べたりします。まあ、山菜料理と似たようなものですが、違うのは個人の発想で自由な食べ方をしようという点です。ですから、山菜に限らず毒性の無い草なら何でも食べます。

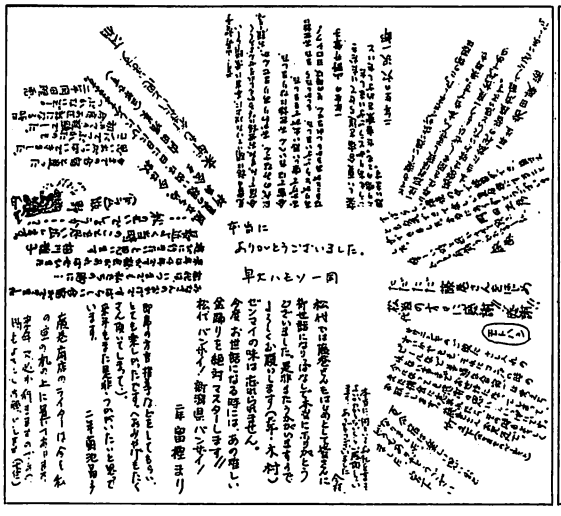
そのようなわけで、毎年、春夏二回の合宿地選びにはとても苦労します。自然環境が良く、百人近くが泊まれる所というのがそう簡単に見つからないからです。そんな時、藤巻さんの紹介で木戸さんという方が部屋の方まで来て下さり、こんな所があるがどうだろうと松代町を教えていただいたのでした。そこで何度か下見に行き、検討を重ね、それでは松代にお世話になろうと決めたのでした。

現地では藤巻さんが間に入って下さり、懸念だった宿泊所も小貫の廃家を使わせて頂くことになり、バスや食料の手配迄全てお世話になってしまいました。

八月の終りに宿舎の整備等のために十余名程の先発が現地入りしましたが、炊事場や風呂を作ったりするのに小貫の方に大変お世話になりました。特に水道をひく時等、僕らが一日がかりでどうにもならなかったものを小貫の方に手伝って頂いたら半日で完成してしまい、その手並みの早さにびっくりしてしまいました。また作業の途中でトマトや色々な物を食べさせて下さり、またそれがとてもおいしく、とても印象に残りました。食料の面でも、となりの部落の方に毎日百人分の野菜を用意して頂いたりしてとても助かりました。また、むささび研究家の藤田先生には色々珍らしい話を聞かせてもらい良い勉強になりました。

今迄の僕らの合宿というと、廃校を借りて自分達だけで合宿を行ってしまうのですが、これ程地元の人たちにお世話になったのも初めてです。会員一同も楽しい、思い出に残るすばらしい合宿だったと喜んでおります。まったく、野山を歩いたり野草を食べたりするよりも、地元の方々との交流の方が強く印象に残る思い出深い合宿をさせて頂きました。

小貫の皆様、そして松代町の皆様、本当にありがとうございました。



私達のねがい

《松代町早稲田大学協力会》

松代町早稲田大学協力会々長　佐藤則夫

四年ほど前、早稲田大学の校・外施設が我が松代町の旧山平中学校跡地に建設されることが決った時、町内の有志の方々によって結成されたのが『松代町早稲田大学協力会』です。大学側と町民の融和が円滑に進み、太い絆で結ばれるよう、少しでも役立ちたいというのが本会の発足当時からの変らぬ願いです。

以来今日まで、マンドリン楽部、ハーモニカ・ソサイアティー、ボクシング部、なべの会など学生の方々の来町に加え、五十五年には清水前総長自らお出でいただくなど、大学側と町民の絆は次第にゆるぎないものとなってきていると実感しています。

当初、学生の方との交流は、私達にとって初めてのことであり、途惑いもありましたが、回を重ねるにつれて、それもなくなり、今では学生の方が来町される夏を心待ちにしている次第です。

四季の変化に富み、自然に恵まれているとはいえ、過疎化の波にあらわれ、ややもすれば沈みがちになる私達町民にとって、早稲田大学の当町への進出は、まさに暗闇に差す一条の光であり、町始まって以来の画期的な出来事と言っても過言ではありません。それだけに又、町民の期待も大きく、一日も早い施設の完成と、四季を問わない学生の方の来町を待ち望んでいる次第です。

学生の方々の若さ、熱気が、この地域の文化、スポーツ活動にも刺激となり、活力ある町づくりに必ずや役立つものと信じております。

一年を通して学生の皆様方から来ていただけるような日が一日も早く訪れることを、協力会の会長としてだけでなく、早稲田大学の一卒業生としても願っています。

松代町早稲田大学協力会々員（三菱電機勤務）　木戸一之

松代町と早稲田大学の両方に係わり合いを持つ私にとって、両者の結びつきがこのような形で着々と成果を上げつつあることは、この上もない喜びです。

この結びつきは、双方にとって新しい時代を画する大きな試みである、と言っても過言ではありません。即ち、松代町にとっては、早稲田大学の持つ高い文化の薫りと、学生達が発散する若いエネルギーが、町民を刺激し、それが新しい町作りの力ともなりましょう。一方、早稲田大学にとっては、松代町の豊かな自然と、人々の細やかな人情が、学生達に、勉学とスポーツに没頭できるまたとない環境を与えましょうし、松代町の地域・文化・自然環境が、先生方にとって良い研究テーマとなりましょう。このような交流は、既にいろいろな形で進められていますが、これからは次のような試みも考えられるのではないでしょうか。

(1) 夏冬を問わず自然の中にとっぷりと漬かって行なう寺小屋式のゼミナール

(2) 豪雪地における学生達の生活体験とスキー合宿（特にクロスカントリー）

(3) 新潟県下の人達を対象とした早大教授陣による公開講座

(4) 県下のスポーツ愛好者を対象とした早大運動部によるスポーツ指導と競技大会

(5) 早大国際部の留学生に日本の地域社会・地方文化をより深く理解してもらうためのホームスティ

(6) 早大教授陣および学生達による松代町をテーマとした社会科学的・自然科学的研究

(7) 早大文化サークルによる地方公演

これ等の交流は、双方が信頼関係の上に立って、出来るものから少しずつ実現してゆきたいものです。私達は今、その基礎作りの大事な時代に身を置いていると言えましょう。実り多い成果は子孫のために！そのために松代町と早稲田大学との結びつきが、文字通り、末代（まつだい）まで受け継がれてゆくことを切望してやみません。

●発行年月日
昭和五十八年七月四日
●発行者
松代町早稲田大学協力会
●連絡先
〒〇二一五五九㊤二〇二三（藤巻）
●印刷　松代印刷所

◆窓口◆

私達は、是非松代町を合宿又はゼミナールにご利用いただきたいと願っております。

松代町早稲田大学協力会がその窓口となりますが、学生の皆様からのお問合せは……

早稲田大学教務課

までお願い致します。

あとがき

非力な私達が精一杯努力してささやかな松代町の広報紙を作ってみました。お読みいただけたらこんなに嬉しい事はございません。でも、最終ゲラを手にして読み直した時、これでふるさと松代町を紹介し得たのだろうか、もっともっと知っていただきたい事が沢山ある、そんなもどかしさをどうしようもなく感じております。

是非松代にお出下さい。そして、共に考え語り明したいと願っています。そこに新しい何かの芽が出るはずです。そんな願いを込めて表紙に千古の風雪に耐えた松の大木を配してみました。

最後にご理解あるご寄稿をくださいました総長西原先生をはじめ、早稲田大学関係者の皆様と松代町役場関係者、そして貴重なご助言をいただきました松代印刷の皆様に深甚なる感謝の意を表します。

編集責任者　藤巻幹雄